



TSUNAGU

- 小から中への滑らかな接続にむけて -

令和7年11月20日

我孫子市小中一貫教育だより
第387号

我孫子市教育委員会 小中一貫教育推進室



我孫子市マスコットキャラクター
「手輿沼のうなぎちゃん」

我孫子市が小中一貫教育で目指す子ども像

- 「ふるさと我孫子」を愛し、誇りに思う子ども
- 確かな学力を身につけ、夢を持ちチャレンジする子ども
- 自分に自信を持ち、自他を大切にしている子ども



布佐地区キャラクター
「ふさだ だしお」

小中一貫オリジナルカリキュラム授業実践の様子を紹介するうな～！

命でつなぐ我孫子中区カリキュラム～二小・3年生「生命の安全教育」

我孫子第二小学校で Abi-オリジナルカリキュラムの授業が実施されました。我孫子中区の「命でつなぐ我孫子カリキュラム」の名の通り「生命(いのち)の安全教育」の単元で3年生の児童が「自分を大切にすること」また「相手を大事にするということ」についてクラスメイトと考えを共有しながらじっくりと学習しました。



授業の中盤で「人とのちょうどよい距離」はどのくらいか考えよう。と先生から提案があると、子供たちは思い思いに「こんくらい!」「これくらいかな?」と腕を広げて確認し合いました。そこで、先生から紐が配られ、紐を使って友達との距離について実際に長さを見て考えることになりました。

子供たちは自分がちょうどよいと思った紐の長さに印をつけた後、長さを友達と見比べて、人によってちょうどよい距離感は違うということを学習しました。

まとめに先生から「人の距離感が守られない場合にどのような行動を取るべきか。」と問われ、各々意見を発表した後に①「いやだ。」と相手に伝える②その場を離れる③大人に相談するということを全員で確認しました。自分と相手の命を大切に、尊重し合える仲であることの大切さを本時の話し合いや紐の長さを「見る」ことで理解を深めていました。

「こほく・あらしき ふれあいカリキュラム」～新木小・1年生「あきをみつけよう」

11月7日(金)に新木小学校の1年生で湖北中学校区オリジナルカリキュラム「こほく・あらしきふれあいカリキュラム」の一環として、生活科の学習が行われました。自然の中から材料を探し、「秋のおもちゃ」を作ります。

まず、児童が秋の雰囲気味わえるよう、担任から「14ひきのやまいも」の読み聞かせがありました。本の題名を聞いた子供たちは「いもは『個』って数えるんだよ。」「やまいもって何かな。」と興味津々です。14匹が力を合わせて大きなやまいもを掘るお話と、本いっぱい広がる美しい秋の森の絵に、子供たちは秋をたっぷり感じました。



続いて、本時の学習の流れを確認しました。今日のゴールは「作りたい秋のおもちゃを考え、絵や文でまとめる」です。参考となる本を、先生がたくさん集めておいてくれました。また、1人でじっくり考えたり、友達と相談したりしながら考えられるよう、座席の位置は自由です。

子供たちは自分たちで集めたどんぐりやまつぼっくり、木の実や葉を手に取り、じっくり考えました。「すべり台を作ってどんぐりを転がして遊ぶおもちゃが作りたいな」と話す子や、「どんぐりをたくさん集めて、どんぐりのお家を作りたい」と計画を立てる子など、目を輝かせながら活動します。中には「作ったおもちゃを友達と組み合わせ大きなおもちゃにしたいね」と相談する子もいました。作るのが難しそうな計画を立てている子もいましたが、トライ&エラーで思いを形に近づけることも大切な学習です。どんなおもちゃができあがるのか、今後に楽しみになる学習でした



T S U N A G U

- 小から中への滑らかな接続において -

令和7年11月20日

我孫子市小中一貫教育だより
第388号

我孫子市教育委員会 小中一貫教育推進室



我孫子市マスコットキャラクター
「手輿沼のうなぎちゃん」

我孫子市が小中一貫教育で目指す子ども像

- 「ふるさと我孫子」を愛し、誇りに思う子ども
- 確かな学力を身につけ、夢を持ちチャレンジする子ども
- 自分に自信を持ち、自他を大切にする子ども



布佐地区キャラクター
「ふさだ だしお」

小中一貫オリジナルカリキュラム授業実践の様子を紹介するうな～！

「こぼく・あらし ふれあいカリキュラム」～湖北小・3年生「ふれあいサロンの方との交流を通して」

湖北小学校6年生総合的な学習の時間でオリジナルカリキュラムの授業を実施しました。この単元は12/12(金)に実施予定のクリスマス会で「ふれあいサロン」の高齢者の方々との交流を深め、人との接し方や感謝の気持ちを育むことを目的とし、本時はその準備の時間となります。

当日に向けて準備するのは、壁飾りとして木の葉で装飾したツリーの絵、サロンの方々と一緒に歌う「あわてんぼうのサンタクロース」の歌詞を書いた掲示物、サロンの方々にプレゼントする手作りのミニツリー、サロンの方々と一緒に楽しんで踊る「ソーラン節」のダンスです。それぞれに担当する児童が分かれており、リーダーから「丁寧に作ろう」「しっかりと覚えよう」などのめあてが発言されました。

リーダーの指示でそれぞれの活動場所に分かれ、いよいよ活動開始です。どの子どもとても楽しそうに、全ての子が集中して一生懸命に自分の役割や作業に取り組んでいました。ダンスの子ども達は、スムーズに覚えるための掛け声を自分達で考え、大きい声を出しながら練習しています。この掛け声を使うと「お年寄りがダンスを覚えやすくなるでしょう」と自慢げに教えてくれました。実行委員の子ども達も当日に向けての準備や進行について真剣な表情で話し合っています。そして、何よりも感心したのは、ダンスの子達が一通りの練習を終えた後、誰に言われるでもなく自分たちで振り返りの話し合いを始めたことです。「もっと大きく動いた方がいい」「〇〇を〇〇するとおじいちゃんやおばあちゃんがもっとわかりやすく覚えられるのでは？」など、主体的に動いている様子に驚きました。ダンスに限らずですが、「サロンのお年寄りに心から喜んでもらおう」という目的を全員がしっかりと共有していたことがこのような素晴らしい姿、授業に繋がったのだと感じています。



「つながる・広がる・支え合う～優しい街久寺家」～根戸小・1年生「あきをみつけよう」

根戸小学校の1年生がオリジナルカリキュラムの一環で北地区社協の方、地域の方、保護者ボランティアの方々のお借りして「昔あそび」の授業を実施しました。

この学習活動は、12月に地域の保育園、幼稚園の園児たちを根戸小に招き、幼保小ふれあい活動を行うにあたって、自分たちが園児たちの遊びの先生になるために、地域の遊びの先生から昔あそびを学ぶことが目的です。体育館に集合し、はじめの会を終えた後、児童たちは9つの昔あそびから思い思いのブースに駆け寄り夢中になって遊びました。遊びの先生からコツを教してもらった子、教えたことを友達に教えてあげる子、飛ばなかった紙飛行機が体育館の空中をすーっと通り抜けて遠くまで飛ばせるようになった子、毬つきに夢中になる子、活動中の児童たちは



時間を忘れて楽しんでいました。地域の方々から「すごいね。」「上手!上手!」と褒められて微笑む子どもたちの柔らかな表情が大変印象的でした。

終わりの会では、児童たちからお礼のダンスと折り紙で作ったメダルのプレゼントがありました。地域の方からも「私たちも楽しかったです。ありがとうございました。」とお話があり、体育館にいる皆が笑顔でお互いに「ありがとうございました。」の言葉が交わされました。根戸小1年生の「つながる・広がる・支え合う」を合言葉にした久寺家中学区の福祉教育プログラムの9年間の学びのスタートが笑顔で切られました。



T S U N A G U

- 小から中への滑らかな接続において -

令和7年11月20日

我孫子市小中一貫教育だより
第389号

我孫子市教育委員会 小中一貫教育推進室



我孫子市マスコットキャラクター
「手輿沼のうなぎちゃん」

我孫子市が小中一貫教育で目指す子ども像

- 「ふるさと我孫子」を愛し、誇りに思う子ども
- 確かな学力を身につけ、夢を持ちチャレンジする子ども
- 自分に自信を持ち、自他を大切にする子ども



布佐地区キャラクター
「ふさだ だしお」

小中一貫オリジナルカリキュラム授業実践の様子を紹介するうな～！

「未来に残してつなぐ布佐カリキュラム」～布佐小・2年生「わたしたちの町はっけん」

布佐小学校の2年生が生活科「わたしたちの町はっけん」の授業で Abi-ふるさとの授業を実施しました。事前にグループごとに好きな事業所を2か所決めて布佐の町探検をしました。

本時は、町はっけんの事後学習です。「みんなに町たんけんでおしえてもらったことをしょうかいしよう」と題して、グループごとに自分たちが「見てきたこと」「聞いてきたこと」「わかったこと」を発表しました。発表は、自分たちの言葉で発表できるよう極力原稿を見ないで行われました。発表で使われた掲示物には、自分たちで描いた地域のスーパーマーケットやパン屋さん、交番など事業所の様子が絵で描かれており、グループごとに工夫が凝らされていました。また、事業所の人たちの人形を作ったグループもありました。どのグループからも「自分たちが町たんけんで見つけてきたことを教えてあげたい!」という主体性が前面に溢れていました。



布佐の町を探検し、町探検で学んだことを紹介・共有することで、さらに布佐の町に愛着を持ち、もっと布佐の事を知りたいという思いが深まり、3年生で行う「布佐の宝を見つけよう」につながる学習でした。

「命でつなぐ我孫子カリキュラム」～二小・6年生「地域の防災」

第二小学校6年生家庭科の時間でオリジナルカリキュラムに位置付けた授業を展開しました。我孫子中学校区はカリキュラムのテーマを「命でつなぐ我孫子カリキュラム」とし、安全・防災で9年間をつなぐとしていることから、本单元の中でも扱われている防災に焦点をあて、子ども達に地域での生活や役割を考えさせる授業でした。

始めに担任が单元名を板書し、「地域での生活」から本時は防災について学習することを告げ、災害の種類や過去に我孫子であった災害について児童に問いました。児童たちは反応よく挙手して元気に回答し、和やかな雰囲気です。授業が始まりました。

続いて、子ども達の回答を受けた担任が「防災のことでどのように地域の人と関わることができるだろうか?」という本時の学習課題を板書し、まずはどんな場所で地域と関わられるかを問います。ここでも児童たちは学校や公共施設などを元気に回答し、それを受けた担任は改めて「地域と関わってどんなことができるか」と問いました。

そして、この発問には、子ども達が考えやすいように、また、友だちと意見を共有できるように大画面と個々のタブレットを繋ぎ、一人ひとりが市のホームページから防災に関する我孫子の取り組みを見ることができるよう、また、オクリンクプラスというアプリを使用して自分の考えを書き込みながら友達も考えていることも見られるように工夫しています。



子ども達は市の取り組みを参考にし、まずは自分で考えたことを一生懸命に書き込み、途中からグループでお互いの意見を交換して学び合います。グループの代表者からの発表では「消防署の電話番号を覚えて何かあったときに地域の人に教える」「こもれびなど地域の人が集まる公共施設に防災のポスターを作って貼る」「地域の防災訓練に参加する」「災害時の炊き出しや荷物運びを手伝う」といった本時のねらいに沿った意見が出されました。最後に担任からは、本時の評価と週末に我孫子市総合防災訓練が行われることが紹介されて授業は終了しました。